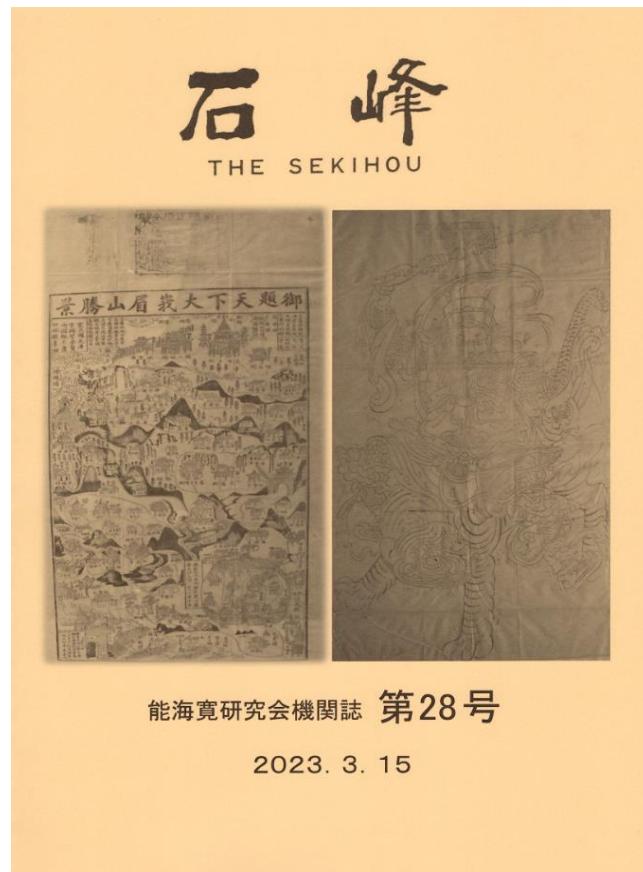


整えた「能海空の式」その後

タイトル	整えた「能海空の式」その後
著者名	植田義法
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第 28 号
ページ	52—54
発行年	2023.3.15
E-mail	Sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)

ISSN 1883-4183



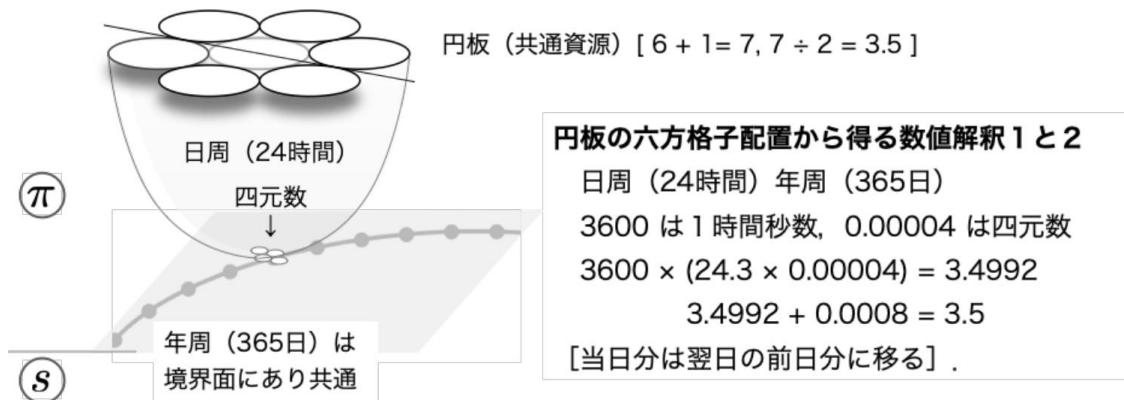
整えた「能海空の式」その後

能海寛研究会会員 植田義法

連続する恒等式トートロジーである「能海空の式」が示すことは、先をゆく科学者に衝撃を与えている気配です。あからさまに誰もそのことを表明しない、表明できない、それぞれ事情によることはわかっている。

「能海空の式」を根拠にしてトートロジーで考えられることは飛躍する、短時間で解答が湧きあがる、「能海空の式」は構造をもって、日本語による思考を助けていると思う。

能海空の式に補足します、前回と同じ図もあります、数値解釈4と5では表現を変更した数値もあります。

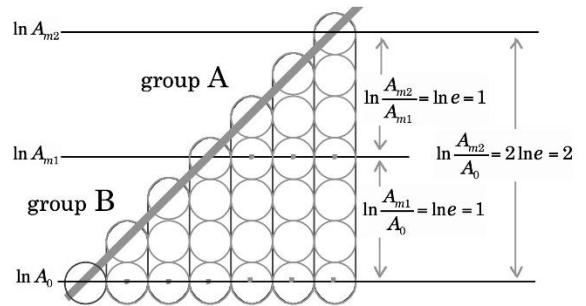
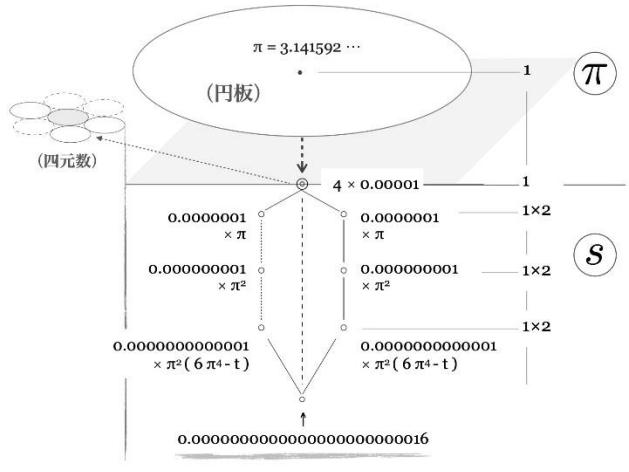


生物の体細胞に 24 時間周期の時計遺伝子がある、生物個体はそれぞれ時計をもっているということだ、人間はそれぞれの持つ時計時刻を統一するために地球時間で時刻を定めた。日周 24 時間の始まりの 1 秒、これは日周 24 時間である年周の 1 秒でもあり、その 1 秒の $1/2 = 0.5$ 秒に 0 が入る、日周と年周の境界に 0 がある、そうすれば $e^0 = 1$ となる。日周 24 時間と年周 365 日は、150 と 2.43 を介して整数の恒等式で結ばれる。数値表の「補足 1」に示しているように、能海空の式では、生物種の遺伝情報 (DNA) はすべて年周 365 日による「17 の層」にある。したがって、種の具現化である個体それぞれに「能海空の式」適用が可能、生物個体の領域が広範囲に覆うことをもって「能海空の式」が成立するところと言える。

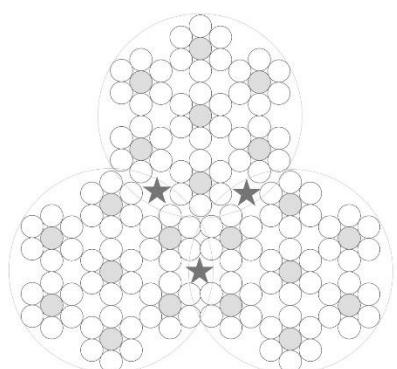
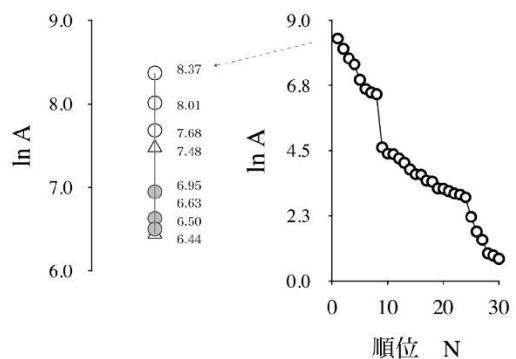
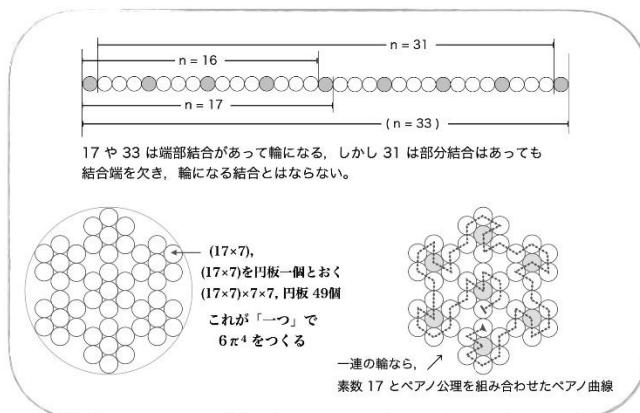
個体についての六方格子演算から円板個数 7 が得られる、このことは、相依性縁起が自然界でふつうにあると知る上で重要と思う。その具体的な周囲との関係様式は、高木林の林冠をつくる樹冠にひろく認められる。自立個体も、林冠ではただ独立ではなく周囲と影響しあう関係をもって立つ。

人間について、仏陀の初めての説法が四諦・八正道（したい・はっしょうどう）、仏教の根本の教えとされている。仏陀は、真理(四諦)を熟知し中道(八正道)を実践すれば一切の苦しみから解脱できるとおしえた。八正道はつぎの八つの修行法、正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定。

四諦は四元数に、八正道は上図 $3.5 - 3.4992 = 0.0008$ という恒等式の整数解その 0.0008 に相当するだろう、これは 24 時間ごとに更新・蓄積される。



$$\left[\frac{A_m}{A_0} = e \right] , \quad e = \left(1 + \frac{1}{n - 0.5} \right)^n$$



円板 $7 \times 7 \times 3 = 147$ 個, ★ 形 3 個, 合わせて 150 個

